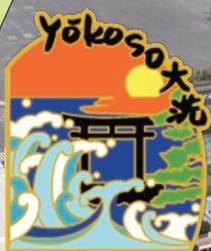


支店長のわがまち紹介

第2回



茨城県 東茨城郡 大洗町

おもてなし運動を展開する“港オアシス”大洗
大洗港の様子

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第2回目は、東茨城郡大洗町です。“地域復興支援プロジェクト『あゆみ』”のもと、平成24年4月に「大洗町の復興支援にかかる包括的提携協定」を締結し、復旧・復興を目的とした各種取組みを連携して実施しました。取組みを進める中で、視察を受けたことをきっかけに、平成25年7月に大洗町、秋田県にかほ市、筑波銀行、北都銀行の四者で広域的地域間の資源、産業の交流・振興を目的とした地域振興協定を締結しました。大洗支店長の檜山が、大洗町副町長 石井孝夫氏、政策監兼町長公室長 雨澤庸夫氏、まちづくり推進課長 小野瀬一弘氏にお話を伺いました。

○大洗町が誇りに思えることは何ですか。

海水浴場としての近隣都県への知名度が高いことです。圏央道開通により、さらにアクセスが良くなることを期待しています。海沿いなので、夏は水戸よりも2度くらい気温が低く、避暑に最適です。地元の方は、出かけた時、大洗に帰ると空気が変わることを実感します。

食べ物がおいしいことも自慢です。夏の海産物は、6月はウニ漁が解禁され、岩ガキもシーズンになります。しかし、震災後、市場にあまり出回らなくなってしまったので、漁業権を若い人に広げていきます。産卵で浅瀬に来る天然の鯛も揚がります。

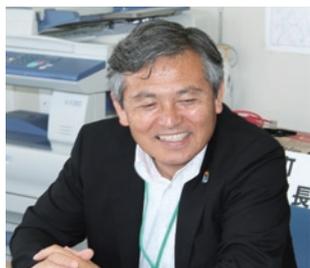
人が良いことも自慢です。大洗の人は普通に話している時も怒っているような、ケンカしているような口調ですが、気持ちはあたたかく、思いやりにあふれています。

○テレビアニメ「ガールズ&パンツァー」の舞台

となった大洗町がマスコミにも注目され多くの観光客を集めています。この取組みを始めたきっかけを教えてください。

平成23年10月にテレビ放映が決定した際、大洗町を舞台にした作品ということで、バンダイビジュアル(株)の制作プロデューサーの杉山さんと、音楽担当の(株)ランティスの関根さんが町役場に挨拶に来てくれました。その時は、大洗が舞台のアニメ…？と何が何だか分からない状況でしたが、町を絡めた取組みを仕掛けたいなら、大洗町商工会にも声をかけて下さいとお話しました。アニメを活用したまちづくりの活動は行政主導ではなくて商工会や民間企業を取組みの中心としたいと考えました。もちろん、必要な支援は惜しまず実施します。

直売所「大洗まいわい市場」を運営している(株)Oaraiクリエイティブマネジメントの常盤さんや商工会理事の田山さんたち青年部が中心となり、アニ



石井副町長



雨澤政策監兼町長公室長



小野瀬課長



檜山支店長

メ放映当初から放映終了後も継続してバンダイビジュアルや地元の企業と連携し、様々な取組みを実施してきました。スタンプラリー、登場人物や登場する戦車のパネルを各所へ展示、QRコードを利用したクイズといった観光客に街なかを周遊していただくイベントを立て続けに実施し、地元企業は様々なキャラクターグッズを開発し、飲食店も関連メニューを提供しました。

その努力が実り、平成25年6月に観光庁の「第1回『今しかできない旅がある』若者旅行を応援する取組表彰」の奨励賞を受賞しました。

○この取組みに、行政はどのように関わり、連携しているのでしょうか。

まちづくりは行政と住民の連携が必要です。3～4年くらい前から、商店街の活性化等に危機感を抱いた若手が自ら活動を始めました。

町役場の窓口で、4月から6月までガールズ&パンターの主人公5人の特別住民票交付を行い、合計16,406通発行しました。人口18,000人弱、住民票の通常の交付が1日40件の町にしては異例の発行部数です。

交流人口の増加で街なかに活気が生まれています。リピーターが多く、地元の人との良い関係が築かれ、良い観光地になっているという手ごたえを感じています。「アニメファン」は、自分たちを特異で受け入れられづらい存在と考えていますが、大洗の人は自然に受け入れ、交流しています。リピーターは、大洗自慢の「人」に惚れ込んでいるという側面もあるようです。そして、ついに、大洗へ移住してくる人が出ました。町内に休日用のアパートを借りていた男性が、職場に転勤希望を出し、大洗に定住することを決意したのです。

○今後の展望を教えてください。

アニメで人が来る現在の流れを大切に、鳥取県境港市の水木しげるロードのように定着することが理想です。マスコミの注目度も高く、たびたび取材されて、地元の特産物等も紹介され、大洗の宣伝にもなっています。

海産物への取組みは、東日本大震災の原発事故の影響が幾分残るものの、回復基調にあります。6月のホッキ祭や10月のしらす祭、11月のあんこう祭では多くの観光客で賑わいます。震災からの復旧のために新たな施設を整備し、漁協直営で凍結生シラスを増産します。生産性の向上により生産量が増加するので、他県への出荷に加え、大洗港に揚がった海産物を大洗で消費する体制づくりも進めます。

防災・減災とにぎわい創出の観点から、今年の海水浴シーズン終了後より、大洗サンビーチを整備します。海岸から緩やかな傾斜を持たせた護岸と津波を防ぐ緑地化した築山を整備し、築山から県道までのエリアの前面はビーチスポーツが楽しめるアクティブゾーンと公園機能を備えた一年中利便性・快適性の高い海浜ゾーンを整備します。また、その背後には賑わい創出ゾーンとして民間企業のノウハウを活かしたいと考えています。

独立行政法人原子力研究開発機構大洗研究開発センターの技術を活かしたガン治療検査薬製造拠点として、つくば国際戦略総合特区の認定を目指します。原子力を発電以外にも活用することがねらいで、ゆくゆくは医療観光への発展も視野に入れています。

今後も、筑波銀行等との包括的提携協定および地域振興協定を活かし、大洗町を広めていく活動をどんどん進めていきます。